

令和4年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）事業

事業主体名 鹿児島県立加世田常潤高等学校

1 目的

農業に関する知識や技術を修得させると共に、就農・新商品開発の意識を高め、幅広い農業観や勤労意欲を育むことで、農業関係への進路促進を図る。

2 実施状況

(1) 中学生向け農業体験学習の実施

「農業」のプロデュースの一環として、中学生を対象とした農業クイズラリーや食品加工体験を行った。

圃場でのクイズラリーは、野菜・果樹・畜産・食品加工分野からの出題だったが、中学生の食いつきがよく、農業に対する興味関心を高めることができた。

担当した生徒達も、体験学習の準備や説明を通じて、自身の農業に対する理解と魅力の伝え方を学ぶことができた。



【図1 クイズラリーの様子】

(2) 生産物販売

感染症対策も行いながら、本校アンテナショップや常潤祭における販売実習を行った。今年度は、大丸百貨店（東京都）で開催された全国農業高校収穫祭に初出店し、都心部のお客様に、本校や鹿児島県の農産物・加工品の魅力をPRすることができた。参加した生徒は、学科の販売実習のリーダーとして他の生徒の接客技術や設営技術の向上に尽力している。

生産物には常潤の森ブランドロゴマークのラベルを貼付し、ブランドPRも行った。



【図2 全国農業高校収穫祭】

(3) 営農励ましの会

関連市町村の農政関係者を来賓に招き、四年制大学農学部や栄養系短期大学への進学、農業関連産業・食品産業への就職を決めた卒業予定者の門出を激励した。

8名の生徒達が卒業後の抱負を語ることで、1・2年生の就農や進路意識を高めることができた。



【図3 営農励ましの会】

3 今後の課題、取組

コロナ禍の中ではあったが、可能な限り体験による学びの機会確保に積極的に取り組んだ。今後も時勢に合わせながら、農業技術の習得や流通経路や消費者動向を見据えた販売手法の学習にも力を入れていきたい。併せて、地域農業の理解を深める機会も確保し、将来の地域産業や農業の担い手育成に努めたい。